

知財の「量」から「質・構造」へ：企業価値を最大化する新時代の知財戦略

GX(グリーン・トランスフォーメーション)特許のパラドックス

「量」の拡大



短期的にはコスト増として市場評価(トーピンのQ)や利益に負の影響を与える

「質」の向上



検引用件数(強)の増加はこれらを強力に牽引する

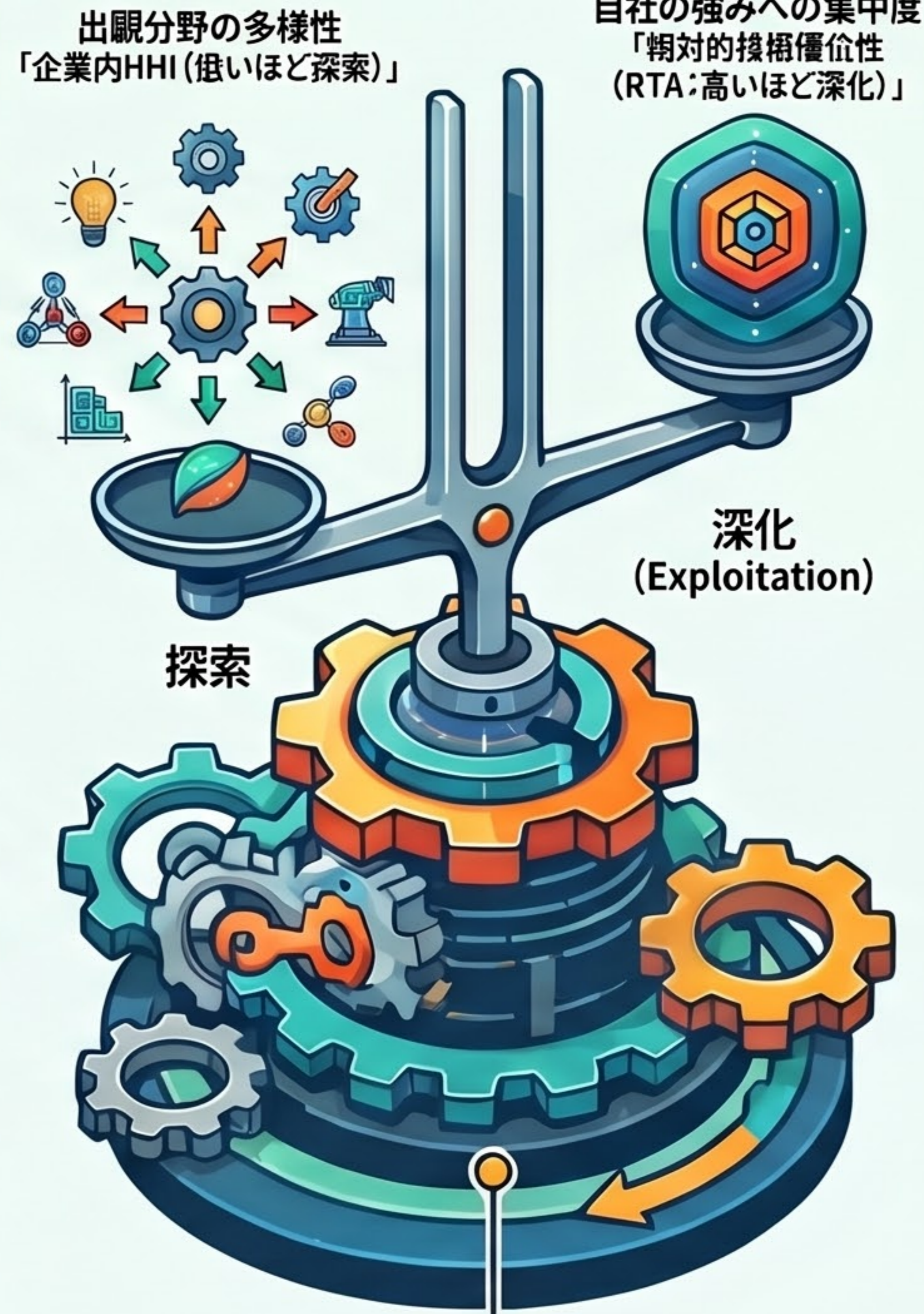
プレミアムを生む



評価指標	GX特許出願件数(量)の影響	GX特許検引用件数(質)の影響
トーピンのQ	✗ 有意な負の影響	✓ 有意な正の影響
経常利益	✗ 有意な負の影響	✓ 有意な正の影響
株式時価総額	有意な負の影響	有意な正の影響
技術輸出額	有意な影響なし	✓ 有意な正の影響(特定地域)

- 真のポーター仮説の成立条件
他社が引用するレベルの圧倒的な技術優位性(員の高いイノベーション)を構築した場合のみ、環境投資が競争力を高める
- 特定分野における強力な正の影響
 - エネルギー・燃料(支障先・燃料電治)
 - 電池・蓄エネ

企業価値を最大化する「両利きの知財戦略」



ROA・企業価値の最大化

研究開発力の高い企業において、「探索」と「深化」を同時に成立させることが要諦

知財責任者の経験レベルが高いほど、研究開発成果を効率的に利益(ROA)へと転換できている

情報開示による「無形資産の価値」の顕在化

情報の非対称性

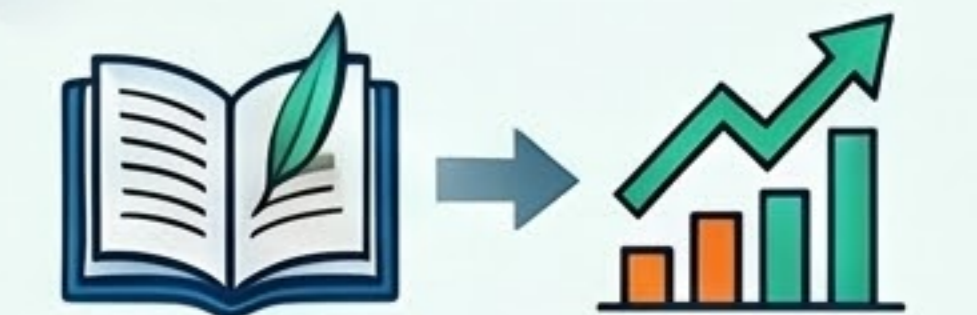


優れた知財
適切に開示しなければ投資家に認識されず、市場評価に反映されないシレンマ



PBR・トーピンのQを統計的に有意に上昇させた

コーポレートガバナンス・コード(CGC)改訂の劇的効果
2021年のCGC改訂に伴う知財投資情報の開示(有価証券報告書での言及増)



「ナラティブ(物語)」としての開示
後々のキャッシュフロー割引にどう貢献するかというストーリーとともに開示することが不可欠

グローバルな知財動向とマイクロ分析の示唆



優秀な代理人(弁理士)
付な確率を6%~11%ポイント引き上げることが実証された



多忙な審査官
「質の低い特許」を多く持つ企業は、特異的に権利リターンが低くなる傾向



オープンサイエンスと戦略的特許開放
テスラによる特許開放のように、技術エコシステムを拡大・強化するための「養蚕の開放」も、莫大な競争優位